

八潮五丁目地区まちづくりワークショップの実施状況について

八潮五丁目地区まちづくりガイドラインの策定に向け、下記のとおりワークショップ（第2回）を実施した。

1. 参加者 ①自治会・管理組合からの推薦 15名
 ②子育て世代（1回目） 5名
 ③子育て世代（2回目） 5名

2. 日 時 ①令和4年 6月17日（金）19:00～20:00
 ②令和4年 6月20日（月）14:00～15:00
 ③令和4年 6月23日（木）19:00～20:00

3. 場 所 八潮地域センター ①レクホール ②③講習室1

4. 内 容
 ・まちづくりガイドライン骨子案について（意見交換） 【資料1, 2】

5. 今後の予定
 ・令和4年8月 第3回ワークショップの実施(ガイドライン原案について)
 ・令和4年9月 素案に対する意見募集（八潮5丁目地区内 全戸配布）
 ・令和4年11月 ガイドライン(案)取りまとめ

第1回八潮地区のまちづくりワークショップ開催概要と意見整理

● 内 容

- ・八潮のまちづくりについて
- ・住民アンケートの報告
- ・ワークショップ（意見交換）

● 参 加 者

- ①自治会・管理組合からの推薦
- ②子育て世代（1回目）
- ③子育て世代（2回目）

● 開 催 日

- ①令和3年11月19日（金）
- ②令和3年12月11日（土）
- ③令和4年 4月18日（月）

● ワークショップの様子



①（1班）



①（2班）



②



③



魅力と課題についての意見

● ワークショップでの主な意見

- ① 運河沿いや周囲の緑道は住民の憩いの場所となっている。
 - ・団地内や緑道に仕事ができるスペースがあるとよい。
 - ・高齢になると、団地内の高低差や歩道橋の勾配がきつい。
- ② 自然環境が豊かで、子育てがしやすいと感じている。
 - ・団地内の広場は遊具が少なく、子どもが遊びづらい。
 - ・街灯が少なく暗い場所があり、女性や子どもが通行するのに不安である。
- ③ 子どもが車道を歩かずに通学することができ、安心である。
 - ・有効利用されていない施設が多いので、子どもの活動の場や多世代交流の場として活用してほしい。
 - ・大人の目が届き、子どもが安心して過ごせる屋外活動の場が必要。

● 住民アンケートでの主な意見

- ・団地からの景色や運河沿いのロケーションが自慢。
- ・自治会によるコミュニティがある。
- ・緑道公園は落ち葉が溜まっており、歩きづらい。
- ・団地の老朽化が進んでおり、改修が必要である。
- ・住宅内や共用部がバリアフリー対応していない。
- ・一部の外国人居住者がゴミ出しのルールを理解していない。
- ・高齢化が進み、自治会の運営に支障をきたしている。
- ・地区に眼科がなく不便を感じている。
- ・商業施設や娯楽施設が充実しているとよい。
- ・交通機関がバスしかないので、不便を感じる。

意見整理

魅力

- ・周囲の緑や運河に面した立地が憩える場所を形成している。
- ・車の道と人の道が分離され、安全に移動できる。
- ・団地からの眺望や運河沿いのロケーションがよい。
- ・自治会によるコミュニティがある。

課題

- ・遊具の整備や落ち葉の清掃など、公園の適切な維持管理がされていない。
- ・仕事ができるスペースなど、公園の新たな利活用ができるとうよい。
- ・公園や団地内は街灯が少ない場所があり、夜は暗い。
- ・医療、福祉だけでなく、お店や公共交通などの生活サービスの充実が必要。
- ・施設や住宅の老朽化を踏まえた改修や更新が必要な時期となっている。
- ・さまざまな世代に対応した住まいの充実やバリアフリー化が必要。
- ・多様な人々や地域住民同士が交流できる屋内・屋外施設があるとよい。
- ・外国人居住者の増加を踏まえたルールやコミュニティの面での対策が必要。

まちづくりガイドライン骨子案について

ワークショップ + 住民アンケート

魅力を伸ばし、課題を解決していくために――

- ～まちづくりの目標～
- 緑の豊かさと水辺の潤いを守り、感じられるまち
 - 安全で安心な暮らしと快適な居住環境を有したまち
 - 世代を越えたコミュニティとにぎわいがあふれるまち

▶まちづくりの目標から導き出される“八潮の将来像”

水がきらめく 緑がかがやく 人がときめく 八潮

▶将来像の実現に向けた取り組みテーマ

まちづくりガイドライン骨子案

- 第1 八潮五丁目地区まちづくりガイドラインの策定
- 第2 関連する上位計画等での位置づけ
- 第3 現在につづくまちづくり ～八潮団地のあゆみ～
- 第4 八潮五丁目地区の現状 第1回ワークショップで提示
- 第5 八潮五丁目地区の魅力と課題
- 第6 まちづくりの目標と取り組みテーマ
- 第7 まちづくりの実現に向けて

前ページで整理した内容

テーマ① 環境

地域に親しまれ、憩いの場となる緑・水辺づくり

緑とふれあえる

- ・四季を感じられる植栽を有した、地区内のポケットパークや緑道の整備などにより、快適で身近な憩いの場を創出
- ・地域の活動や学校等と連携した緑育活動を通じて、子どもたちが緑を学びふれあう機会を創出

水辺のうるおいを感じられる

- ・水辺をより身近に感じられるように、親水性を高める水辺空間の整備と利活用を促進
- ・運河沿いのライトアップなど、魅力的な水辺景観を創出

自然環境の機能を活かす

- ・都心に立地しながら有する豊かな自然環境を、土地利用との調和を図りながら保全・活用
- ・地区を囲む緑道公園などを活用し、健康増進や交流機会の増加を目指した散策路の整備を目指す

テーマ② 安心安全

人々の様々な活動を支える 安心・安全づくり

日常の安全性を高める

- ・通学路や生活道路における防犯灯の整備や死角解消、自転車走行空間の整備など、安全な通行と犯罪の抑止を促進
- ・建物や歩道の段差解消など、歩行者空間の連続的なバリアフリー整備を促進

災害に備える

- ・学校や地域における一層充実した防災知識の普及を促進
- ・多様化する災害に対応する地域防災力の充実・強化

地域とつながる

- ・地域の人による子どもや高齢者の日常的な見守りを促進
- ・防災イベントなどを通じて住民同士の顔を合わす機会を増やし、地域コミュニティによる防災力の強化を促進

テーマ③ コミュニティ

持続的な暮らしとコミュニティづくり

誰もが暮らしやすい

- ・多様なライフスタイルに対応する良好な居住環境の整備を促進
- ・買い物場所や移動手段など、日常生活に不可欠な機能の維持・向上を促進

多世代交流ができる

- ・地域の一員として気軽に地域の活動に参加しやすい環境づくりを促進
- ・多世代交流や賑わい創出を支援するまちづくり拠点の整備を促進

多様な生き方を尊重する

- ・外国人居住者が快適な生活を送ることができるよう、多言語案内板やマナーブックの作成を促進
- ・国籍にかかわらずお互いに支え合えるコミュニティの形成を促進

テーマ④ にぎわい

多様な魅力を備えたにぎわいづくり

にぎわいとやすらぎが調和する

- ・子供の成長に応じた遊び場や居場所を整備
- ・公園やグラウンドなどのオープンスペースを活用したイベントの開催を促進

地域資源を活かして魅力を高める

- ・学校等の施設開放により、地域住民のスポーツ活動や交流を促進
- ・公園の整備や運営に民間活力を導入し、魅力向上を促進

個性とポテンシャルを活かす

- ・カーシェアリングやシェアサイクルの導入など、オンデマンド交通の導入を促進
- ・公共施設や空き室などを活用したコワーキングスペースなどを整備し、多様な働き方を支援